

としょかんだより

【下條村立図書館 136号 2018年9月15日発行】

スマートフォンが目に入ると、たとえ画面を見なくても記憶力や思考力が落ちる。最近ハーバード・ビジネス・レビュー誌にそんな論文が載ったそうです。スマホがないと生活が立ち行かないこともある世の中。災害では、被害状況の発信や家族との連絡にも力を発揮します。いい面もあれば悪い面もある。スマホから目を上げれば、同じ地域で生きる仲間がいる。今いるこの世界で、助け合い笑顔を交わすこと。スマホはそのためのツールです。

小学生図書館ボランティア 平成14年始動から16年！

「がんばっています！」

小学生図書館ボランティアは、学校週休2日制にともない2004（平成14）年に始まりました。これまで36人の子どもたちが入会し活動し、32人が小学校卒業とともに巣立っていきました

現在活動しているのは、4人の元気な子どもたち（2～4年生）。今回は、現在活躍中の図書館ボランティアの様子をお伝えします。

2017（平成29）年4月に入会したのが**福沢友貴さん**（4年生・休戸）。2人のお姉さんがボ



ランティアでずっと活躍しているのを見て大きくなりました。現在の4人のなかでは、いちばんの先輩として頑張っています。

翌年2月に入会したのが、**2年生の古田結花**（ゆうか）さん（北平）。29年度先輩5人が卒業し、友貴さん1人だけで頑張るなか“まだ2年生だけど読み聞かせも発表也大すき！”な結花さんの入会で図書館ボランティアもピンチを脱出！元気をとりもどしていきました。

2018（平成30）年度が始まり、5月には**山下桃々**（もも）さん（3年生・鎮西）が入会。しっかり者の桃々さんは、絵本よみも紙芝居もあつという間にマスターし、新しいアイデアを出したりみんなをはげましてくれたりと活躍中！

そして5年ぶりの男子、**下澤優汰**くん（3年生・合上）が7月に入会。ダンスもピアノも習っていて、絵も得意です！入ったきっかけは、担任の先生に「優汰くんは、声もいいし堂々としていて発表がすばらしいから、読み聞かせに向いているよ」と言われたからだとか。その言葉どおり、優汰くんが読めばみんなが注目！！それは、すばらしいのです！4人のおはなし会は、毎週土曜日10：30～11：00、ぜひ見に来てください。

現在、図書館にて『**みんなでつくろう！ダンボールハウス**』プロジェクトが始動中！図書館利用者有志、小学生図書館ボランティア、児童クラブが中心となり、あしたむらんどに『遊べる』『くつろげる』『楽しめる』“あそび場”を製作しています。11月にはオープン予定…どうぞお楽しみに！

もくじ

1p：としょかん大好き家族

2p：『わが兄チェーホフ』

3p：宮島綾子さん寄稿

4p：新刊ぴっくあっぷ

下條村出身の宮島綾子さんより 著書をご寄贈いただきました。

【宮島綾子さんのご紹介】

下條村出身（合南・白木屋）、飯田高校卒。1980 年より 1 年間レニングラード大学に学ぶ。岩崎書店勤務後、ロシア語研究・翻訳を続ける。訳書に『900 日の包囲の中で』『さようならはいわない』『ふしぎなつぼ まほうのこんぼう』等。

宮島さんは飯田高校卒業後に上京、5 年後に岩崎書店に勤務。ロシア語を独学で身につけ、さらに“旅程管理”資格を取得、プロのツアー添乗員となりました。

初めての翻訳作品『900 日の包囲の中で』ユーリー・イワノフ著（岩崎書店）は、「第 29 回青少年読書感想文全国コンクール課題図書」に選ばれ、全国の学校図書館や公共図書館に並びました。コンクール入選者表彰式は、天皇・皇后両陛下ご臨席のもと、東京会館にて盛大にとり行われ、翻訳者の宮島さんもお挨拶をされました。

また、テレビ朝日のニュースステーションでは、画面での翻訳者として活躍されました。



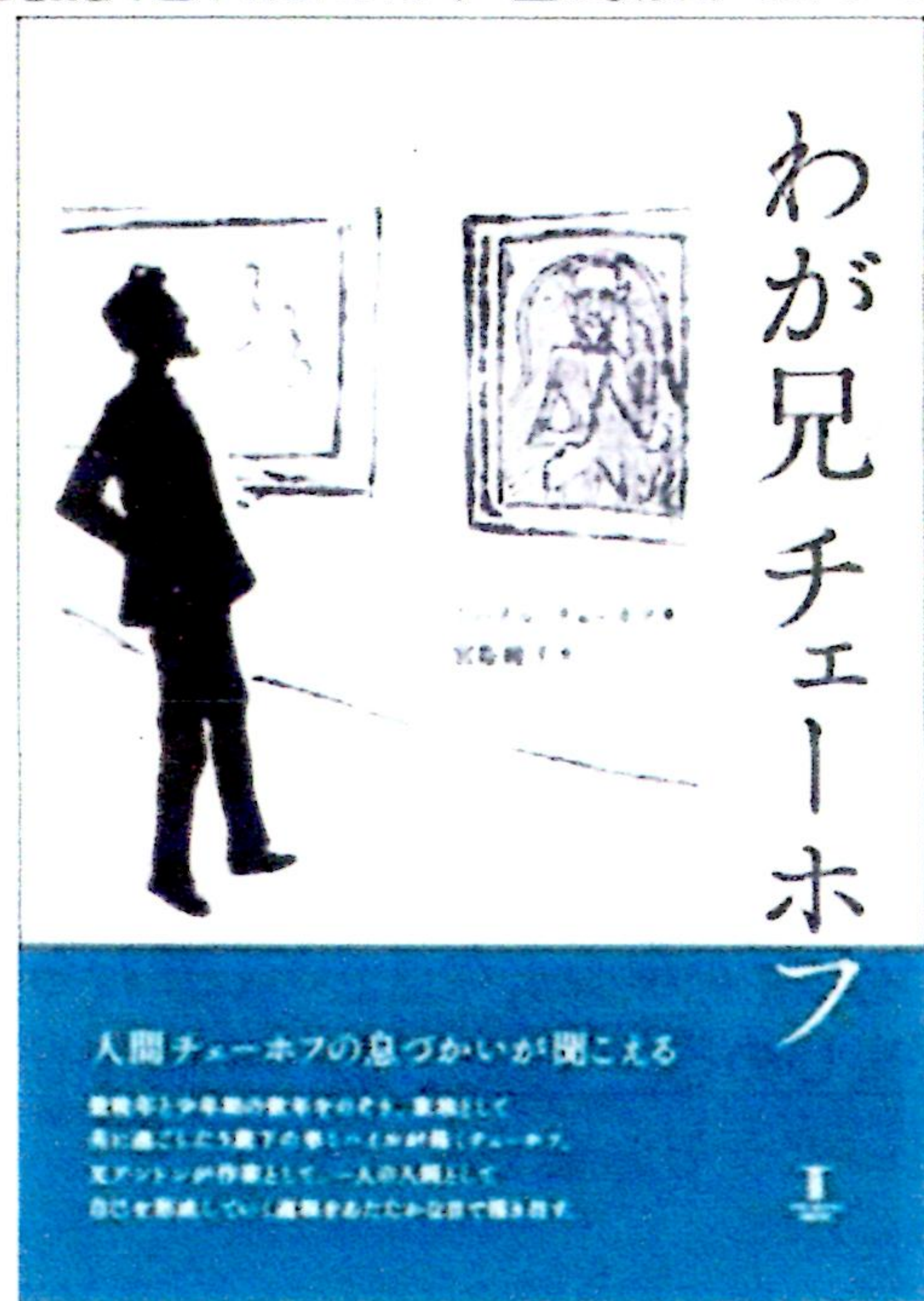
宮島さんが翻訳した本。上段左から『ふしぎなつぼ まほうのこんぼう』『900 日の包囲の中で』『さようならはいわない』（すべて児童書）。下段が『わが兄チェーホフ』。

すべて図書館に入っています。ご利用ください。

<図書館にご寄贈いただいた新刊>

『わが兄 チェーホフ』ミハイル・チェーホフ著 宮島 綾子 訳 東洋書店新社発行

ロシアの代表的作家アントン・チェーホフ（1860～1904）の実弟ミハイル・チェーホフによる回想録『わが兄チェーホフ』が日本で出版されました。この本を翻訳されたのが、宮島綾子さんです。



『わが兄チェーホフ』のご紹介

数多くの優れた短編小説や、世界中で今も上演され続ける演劇『桜の園』『かもめ』『三人姉妹』等の戯曲で知られる、ロシア文学の代表的古典作家アントン・チェーホフ。

その時代を超え読み継がれる文学は、どのような人生から生まれたのか？チェーホフの人生の中核をなした様々な出会いと作品、実生活での素顔などが綴られる。家族とともに過ごした5歳下の弟ミハイルが描く作家チェーホフ。兄アントンが作家として、1人の人間として自己を形成していく過程を、あたたかな目で描き出している。

『週刊読書人』の書評に取り上げられています。見出し：作者と作品を繋ぐ贅沢な文学体験／弟から見た等身大のアントン・チェーホフ／評者：内田健介（千葉大学非常勤講師）

9月8日（土）の信濃毎日新聞の文化欄に、宮島さんが大きく取り上げられました。見出し：知られざる文豪の素顔 日本に／わが兄チェーホフを翻訳 下條出身の宮島さん

宮島綾子さんから メッセージをいただきました！

下條村のみなさん、こんにちは！

この度、村の図書館だよりに私の訳書「わが兄チャーホフ」を紹介して下さることになり、大変うれしく思っております。

下條を離れて 60 年も経ちました。実家は合原の白木屋です。昔は「とこば」（理髪店）をやっていましたが、いまは母も兄も亡くなり独り兄嫁が実家を守っています。帰省する回数が少なくなり今は年に何度も行けませんが、しみやかな帰省です。とくに、畑から台所へ直結する義姉の手料理がうれしいです、しみみな夕餉です。

現在、埼玉県の秩父（横瀬）に住んでいますが雰囲気は下條に似ています。私はそう感じました。ここに住もうと決めたのは、田んぼの土手の「茶飲み」風景に下條を感じたからです。それから 2 年後（昭和 61 年）、「小さな家」を建てて住み始め、今年で 32 年になります。東京から特急で 80 分、通勤圏内と考えています。

ロシア語について・・・「なぜロシア語」を始めたのか、は一言で説明ができます。簡単な理由です。初めての外国がソ連（ロシア）だったからです。岩崎書店（出版社）を辞めた退職金で、岩崎の人に勧められて、「有り金はたいて」海外旅行・・・1969 年です。当時は 1 \$ が 380 円、ドルの持ち出しにも制限がありました。未知の国、外国は魅力的でした！でもコトバの壁で「面白さ半分」を実感。帰国してから猛勉強です、次のステップに備えました。因みに、岩崎書店は入社して 5 年目で辞め、15 年後（1984）にまた戻って 10 年間、月刊誌の編集をしました。高卒の私にとって岩崎書店は「大学」です。

文学については、中学のころから藤村は読んでいましたが、色々雑読です。一番の気に入（だと思っていた）は梶井基次郎でした。外国文学には興味を感じませんでした。訳語の「翻訳調」に馴染めませんでした。ロシア文学は「名前がややこしい」うえ、時々「呼び名が変わる！」（ロシア語では大変重要な意味を持つのですが）ので、「登場人物一覧」が手許にないと理解できず、面倒くさい、面白くない！と印象はよくありませんでした。ところが、原文で読んで私の印象はひっくり返りました。面白くて惹きつけられました。文学の奥深さ、哲学的魅力を感じるようになったのです。

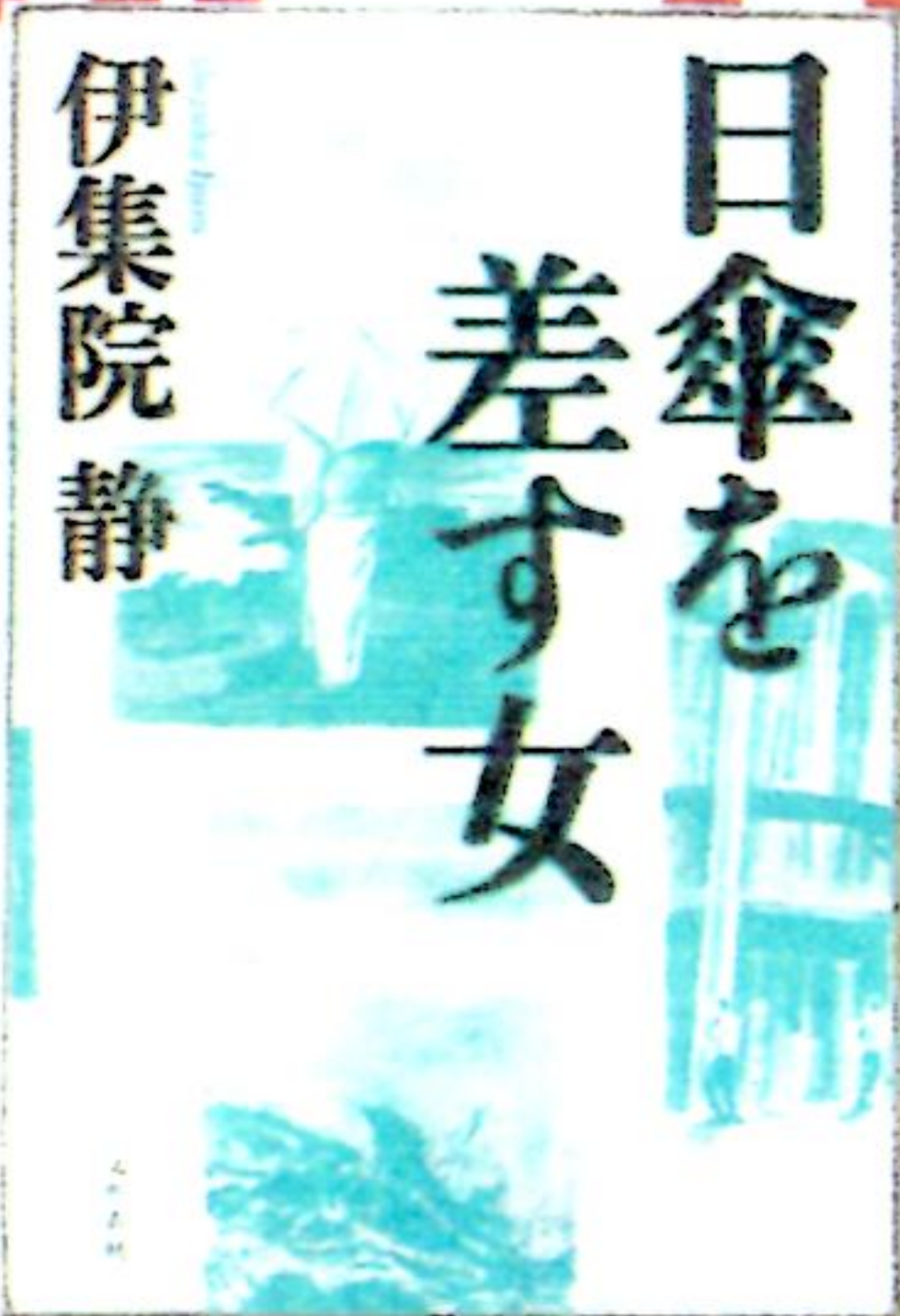
訳書がなぜ「チャーホフ」なのかは、「わが兄チャーホフ」の「あとがき」に書きましたので読んで頂きたいと思います。目下、翻訳を進めているのは「その後のこと」（マリア・ロリニカイテと言うユダヤ人の女性作家の実録。ナチ占領下のゲットーと収容所での苦難の後、自由の身になった（はずの）彼女に起る様々な出来事を記録したドキュメント）に仲間とグループで取り組んでいます。

生計を立てるために色々な仕事をしてきましたが、ロシア語に関係するものでは、ロシア語圏へのツアーの添乗があります。「ソ連一周」「ロシア文学の旅」「シベリア鉄道全線」「オペラ・バレエ観賞の旅」「慰霊墓参の旅」（シベリア、中央アジア等の抑留者埋葬地）等々です。

今月 22 日から「コーカサス・ワインと食文化を巡る」旅に添乗で出掛けます。

これで自己紹介を終わります。エネルギーが伝わるように努めました……

新刊 ぴくあぶ



「日傘を差す女」伊集院静著 文芸春秋／都心のビルの屋上で、捕鯨船の伝説の砲手である老人が、胸に鉋が刺さった遺体で発見される。捜査本部は自殺と結論付けるが、酷似した凶器で殺害された遺体が次々と見つかり…。*Fイ



「がいなもん」河治和香著 小学館／蝦夷地を6回にわたって踏破し、多数のアイヌの地名を記録。吉田松陰らの蝦夷地アドバイザーを務め、古稀記念に富士登山！傑物にして奇人、“北海道の名付け親”松浦武四郎の生涯を描く。*Fカ



「神に守られた島」中脇初枝著 講談社／沖縄のすぐそばにある沖永良部島。大戦末期、米軍機による激しい攻撃を受けるが、島の子どもたちはいきいきと過ごしていた。そんなある日、島に特攻機が不時着するという事件が起き…。*Fナ



「名古屋円頓寺商店街の奇跡」山口あゆみ著 講談社／人々の消費スタイルの変化と後継者不足から、「緩慢な死」へと向かいつつあった商店街は、ひとりの建築家が縁を持ったことから、活気に満ちた商店街へと生まれ変わり…。人間味にあふれた地道な街づくり、人づくりの物語。*672ヤ



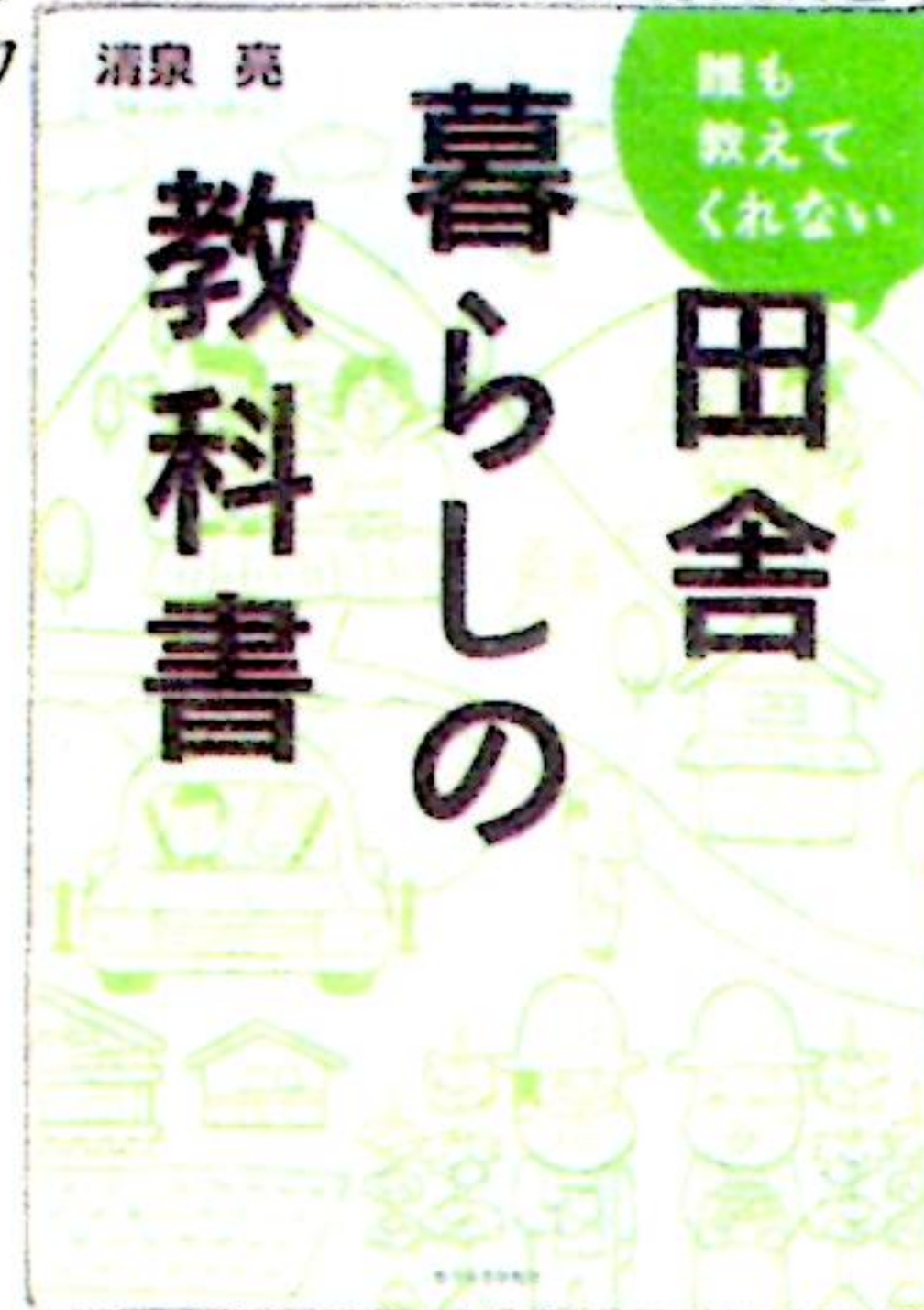
「ナナメの夕暮れ」若林正恭著 文芸春秋／自意識に振り回されていたオードリーの若林。だが、40を手前にして変化が訪れる。「おじさん」になった若林が「生き辛さ」からいかに解放されたかを語る。*779ワ



「食べる女 決定版」筒井ともみ著 新潮社／彼氏と昔の男を天秤にかけながら玉子かけごはん、浮気した夫を見返すための特製肉じゃが…。食と恋をめぐる美味しい物語、全24編を収録。味覚と心を研ぎ澄まし、人生の酸いも甘いも楽しむ女たちを祝福する、美味なる短編集。*2



「くよくよしない力」フジコ・ヘミング著 秀和システム／完璧な人間なんていない。人はみんなどこか弱くて、人はみんなどこか自信がない。数々の苦難を乗り越えてきた奇跡のピアニストが、力強い言葉でつづった勇気づけのエッセイ。*762ヘ



「誰も教えてくれない田舎暮らしの教科書」清泉亮著 東洋経済新報社／健康保険料が都会の5倍！？挨拶の菓子折りを配る順番がすべて！？収入に関わらず副業をもて！地方移住歴20年以上のベテラン・イジューが、田舎暮らしを快適にするコツをアドバイスする。*611セ



「わけあって絶滅しました。 世界一おもしろい絶滅したいきもの図鑑」丸山貴史著 ダイヤモンド社／不器用だったり、不運だったり。ドードー、シンチョウ、ティラノサウルスなど、いろいろな生き物が絶滅した理由を、大きさ・生息地等の基本データやイラストとともに紹介。切り取り式の「絶滅全史」付き。*482マ



「今さら聞けないお金の超基本 節約・貯蓄・投資の前に」坂本綾子著 朝日新聞出版／近年、お金を取り巻く状況がダイナミックに変わってきている。「稼ぐ」「納める」「貯める」「使う」「備える」「増やす」など、お金を機能別にとらえなおして、わかりやすく図解する。*330サ



「繕う楽しみ」ミスミノリコ著 主婦と生活社／洋服のシミや穴をカラフルな糸で繕うヨーロッパの伝統的な衣類修繕テクニック・ダーニング。たくさんの洋服や思い出のモノをお直した実例や、日々のお繕いのなかで改良した手法などを、豊富な写真とともに紹介。*593ミ



「石けんで肌はきれいになる メイク落としもできてスキンケアがシンプルに」井出順子著 ベストセラーズ／誰でも簡単に作れて、顔も髪も体も洗える！植物オイル、水分、苛性ソーダをベースに、クレイやパウダー、はちみつなどの自然素材や、香りのある精油を加えた石けんのつくり方を紹介します。*576イ